

令和元年度における「改善に取り組む課題及び改善に向けた方策」（とりまとめ表）

番号	委員会・学科	今後、改善に取り組む課題	令和元年度に行う改善に向けた方策 ＜Plan(計画)＞	令和元年度における改善に向けた方策に対する評価等		
				令和元年度の取組内容(結果) ＜Do(実行)＞	評価結果(優れた点、さらに改善を要する点等) ＜Check(評価)＞	改善に向けた方策(案) 〔または翌年度へ引き継ぐべき課題〕 ＜Act(改善)＞
1	教務委員会	学生に効果的で主体的な学習を促す授業内容・方法について検討する必要がある。	教育課程についての検討の一環として、学生の学習時間確保やCAP制の適正単位数の視点を踏まえて、FD活動等を通じて検討する。	・学科拡充を考慮した2020年度(令和2年度)の教育課程を審議した。 ・FD研修会での主体的な学習を促す授業方法の発表、授業アンケートの実施と結果のフィードバック、学生生活実態調査の結果集計や分析、単位不足者に対する学習面談の実施等を通じて、授業改善や学生の特性の把握に努めた。	学生の学習時間確保やCAP制の単位数を考慮した教育課程について検討する機運が醸成していない。	・学生の学習時間確保やCAP制の適正単位数の視点からも教育課程の見直しを検討してもらうよう努める。 ・FD活動等を通じて常に主体的学習を促す授業内容・方法について検討していく。
2	教務委員会	大学院再編に向けて大学院の教育課程について検討する必要がある。 【令和元～2年度】 複数年度課題	各専攻の教育理念、学習・教育目標を達成する教育課程や教員個々人の専門に依存する現在の大学院の授業の在り方等について検討する。	今年度は2020年度(令和2年度)の教育課程について審議した。	大学院が再編される2021年度(令和3年度)の教育課程の議論が進んでいない。	再編後の教育課程等について必要に応じて各専攻で検討してもらいながら、教務委員会においても審議や必要に応じて調整等行う。
3	教務委員会	学生の要望・意見等を柔軟かつ効率的に取得する方法が不足している。	現在、授業アンケートや学生実態調査を通して得ている学生の情報を、今年度より導入した新講義支援システム(Web Class)を利用して取得するための運用方法を検討する。	Web Classを利用した授業アンケートの試行を5科目で行った。	今後、Web Classを利用した授業アンケートを本格実施する。	試行結果分析し、これをもとに運用を見直し、再度試行を行い、本格実施に近づける。
4	図書館運営委員会	本学学生への読書啓発活動を進め、図書館利用者数の増加を図る。	・読書啓発コーナーの充実に努める。 ・優秀読者表彰を推進し、学生の読書をさらに奨励する。	・新たな選書企画によって、学生の意見も取り入れながら、読書啓発コーナーに図書を補充し、その充実に努めた。 ・優秀読者表彰を、2部門に増設し、学生の読書をさらに奨励した。	・読書啓発コーナーへ補充する本を決めるにあたり、従来の司書職員による選書に加え、新たな学生選書企画を開催し、学生の読書に対する意識向上を図った。 ・優秀読者表彰に、読書啓発コーナーの利用者に対する表彰を加えることで、読書啓発に努めた。	・学生選書、優秀読者表彰を継続し、引き続き本学学生への読書啓発活動を進める。
5	図書館運営委員会	昨年度リニューアルした射水館HPおよび新設した富山館HPの整備作業を進め、本館活動の学内外への情報発信に努める。	図書館HPのコンテンツが利用者のニーズにあったものか、継続して検討し、両館HPの修正・改修を進める。	図書館HPを全面リニューアル、 ・射水館HP ・富山館HP を新設した。また、両館の英文HPも整備した。	リニューアル版を構成する際に、司書職員の意見参考にして、利用者のニーズにあったものとなるように留意した。	掲載内容の確認および更新を継続し、利用者のニーズに沿ったHPとなるよう引き続き努める。
6	図書館運営委員会	環境工学科棟の蔵書整理について、本年度中に整理・処分を完了させる。	これまで行ってきた保存希望調査等をふまえ、適切に整理・処分を実施する。	学内教職員や関係機関とも連携しながら整理・処分を進めた。	スケジュールどおり年度内に適切に整理・処分を完了することができた。	次年度より設けられる新棟書庫も活用しながら、本学図書館の蔵書整理を継続していきたい。
7	地域連携セ	令和2年度に完成する新校舎内に開設するオープンラボの活用に向け、その運用規則、指針を整備する必要がある。	本学におけるオープンラボの位置付けを明確にした上で、他大学の例などを参考に運用規則・指針を整備する。また、令和2年度のオープンラボの開設・利用に向け、関係部署に情報発信を行う。	地域連携センター運営委員会において、オープンラボの運営方法を検討し、入居に向け、入居者募集要項等の整備など着実に準備を進めた。	準備期間が短いなか、他大学の例を参考に着実に準備を進めた。今後、本学独自の課題が生じる可能性がある。	オープンラボの入居状況を勘案し、施設の有効活用の観点から、必要に応じて入居期間の見直し等を検討する。
8	キャリアセ	・インターンシップ指導教員と就職指導教員の業務に関する全学的共通理解を深めることにより、学生が混乱しない進路指導体制を整える。 ・ウェブページに提供する情報の充実と情報更新の体制の明確化を通じて、学生によるウェブページの情報活用をより促進する。 ・インターンシップの活動状況をウェブページ等で公開することについて検討する。	・インターンシップ協議会等の状況を考慮し、さらなる業務の明確化を進めると共に、関係教員へ指導業務の周知を徹底する。 ・キャリアセンターウェブページにおける情報更新をより迅速化し、提供情報の見直しを常時行う。 ・インターンシップの活動状況を公開する具体的な方策を検討する。	・インターンシップ担当教員、就職指導担当教員との打ち合わせ会、各学科個別対応等により、連絡調整を徹底し、指導体制の明確化に努めた。 ・ウェブページによる迅速な求人情報(学内限定)の提供が可能となり、学生へのウェブ上での情報提供(進路ガイダンス、企業研究会、シルモクなど)にも努めた。 ・インターンシップの活動状況についてのウェブページ等での公開について検討を開始した。	・インターンシップ協議会との調整が不十分な部分がある上、対象となる学生数の増加も影響し、インターンシップ指導教員の負担軽減につながらなかった。	・インターンシップ協議会等の状況を考慮しつつ、学科を横断したインターンシップに関する指導体制の共通理解を図る。 ・インターンシップ取り組み状況をウェブページ等で公開する。
9	計算機セ	工学部の入学定員拡充および、看護学部新設による利用者増加、地域分散に対応できるネットワークシステムの運用方法が十分に検証できていない。	工学部で使用されることを前提に作成されている現在の計算機システムの運用方法や手順、マニュアルについて、拡充、複数学部体制、地域分散後に運用しながら、必要に応じて見直しを実施する。	計算機センター利用規程、セキュリティ対策基準の修正を行い、看護学部への対応を実施した。また、両学部事務局担当者を含めた定期的な打ち合わせを実施し、全体方針の調整や個別の問題に対する対応を行った。	1年を通して大きな問題は発生しなかった。	看護学部新設、工学部拡充による運用方法への影響は小さく、現在の方法で順調に運用できていると考えられるため、次年度も、この運用方法を継続する。
10	計算機セ	R2.4予定の新校舎開設に関わるネットワークシステムの運用方法が十分に定まっていない。 【令和元～2年度】 複数年度課題	【令和元年度】 ・利用者増加に向けたシステム運用方法の検討を実施し、確定する。 【令和2年度】 ・制定した運用方法の検証を実施する。	対象となるネットワークの範囲が広がっても、管理の負担が大きくなりたくないようなネットワークシステムの仕様とし、アクセスポイントやスイッチ等のネットワーク機器に関する死活監視により、安定した通信環境を提供可能なものとした。	新棟のネットワーク納品の完了が3月末であるため、実際の手順等は未見である。	実際に納品された新規の機器・配線を含むネットワークシステムの運用を行いながら、その運用手順や方針について状況を見ながら調整を実施する。

番号	委員会・学科	今後、改善に取り組む課題	令和元年度に行う改善に向けた方策<Plan(計画)>	令和元年度における改善に向けた方策に対する評価等		
				令和元年度の取組内容(結果)<Do(実行)>	評価結果(優れた点、さらに改善を要する点等)<Check(評価)>	改善に向けた方策(案)[または翌年度へ引き継ぐべき課題]<Act(改善)>
11	計算機セ	看護学部の情報処理室の計算機システムを衛生学院の教員・職員が使用する場合の運用方法が十分に検証できていない。	現在の運用方法について、問題なく機能しているかを継続的に把握し、必要に応じて見直しを実施する。	計算機センターの運用について月2回以上の打ち合わせを実施し、その中に看護学部事務からの現運用方法における問題点指摘の機会を設けた。	軽微な問題は発生したものの、いずれも運用方法を適合させることで対応可能であった。	現在の運用方法で特に大きな問題点はないと考えられるため、次年度も引き続き看護学部事務からの問題点報告の機会を維持する体制を継続する。
12	計算機セ	看護学部の開設、工学部の学科拡充に伴い、教職員が増加しており、情報セキュリティ意識の向上がますます重要となっている。	全教職員を対象とした情報セキュリティ研修会を開催し、本学の情報セキュリティ対策への理解を深める。	情報セキュリティ研修会を、工学部と看護学部それぞれにあわせて別開催し、両学部の全教職員を対象としてセキュリティ意識の向上を図った。	特に看護学部の新任教職員に対し、セキュリティ意識の啓蒙を図ることができ、また本学の情報セキュリティに関する基本ルールを周知することができた。	次年度以降も引き続き工学部および看護学部において情報セキュリティ研修会を実施する。
13	生・医工研セ	生物工学研究センターのプレゼンが必ずしも十分ではないため、より一層強化する。 【平成29～令和2年度】 複数年度課題	・採択になった「くすりのシリコンパレーTOYAMA」プロジェクトを、生物・医薬品工学研究センターが中心となって、学科の枠を超えた学内外共同研究として推進する。 ・産学官金によるマッチング・交流・ネットワークづくりを推進する。 ・国内外、特に県内の共同研究を活性化し、連動する学部教育をより魅力的にしながら、生物・医薬品工学研究センターの研究活動をさらに充実させる。	・「くすりのシリコンパレーTOYAMA」事業を、生物・医薬品工学研究センターが中心となって、学科の枠を超えた学内外共同研究として強力に推進した。 ・同事務室の設置により支援体制を作り、県内企業などとの共同研究を推進するとともに、マッチング・交流・ネットワークづくりを推進した。 ・JSPS日独二か国間事業、JASSO奨学金の獲得などによって、若手研究者の育成、国外および県内企業との共同研究を活性化し、トップレベル人材が大学院の授業を行うことにより連動する学部教育をより魅力的にした。	・「くすりのシリコンパレーTOYAMA」事務室の目覚ましい活躍により、学内外の共同研究を協力に推進できる体制を整備した。共同研究の実質化・深化を行うための仕組みづくりを推進する。 ・県内企業との交流・ネットワークづくりを開始した。同様に研究体制を強化し、実質化・深化を行う。 ・本学教員の理解を得ながら、トップレベル人材が、学内の大学院教育などに貢献できるよう、宣伝およびマッチングを行う。	・「くすりのシリコンパレーTOYAMA」事業についての教員の理解を推進し、より広い協力体制の構築を目指す。 ・適切な人員の配置により研究体制を強化し、県内企業との共同研究をさらに深化して、学内外各層との共創関係を広げる。 ・プロジェクト研究の推進を核として、学内外の理解を得て、学科の枠を超えた学内外共同研究を活性化し、成果を若手研究者の育成や魅力ある教育にフィードバックする。 ・充実した研究環境を「くすりのシリコンパレーTOYAMA」事業等を通して地域共有化を進める。
14	国際交流委員会	2020年4月に電気電子工学科及び情報システム工学科の設置が予定されていること等から、英語版のウェブサイトやパンフレットの全面見直しを検討する。	2020年4月に電気電子工学科及び情報システム工学科の設置が予定されていること等から、英語版のウェブサイトやパンフレットの全面見直しを行う。	英語版のウェブサイトやパンフレットの見直しを進めた。	ウェブサイトやパンフレットの見直しすべき内容について、各所へ照会し、原稿の集約を行った。	更新したウェブサイトを開示し、パンフレットを配布する。
15	パステル工房	ものづくりに対する学習効果の高い教育を実践するために、教育方法の工夫が必要である。	ものづくりの基礎的技術の習得や技能の向上を図るために、パステル工房を活用した学生のものづくりを支援する。	卒業研究、修士論文での研究に必要な治具、試験片等の作製を積極的に支援した。	全学的にパステル工房を利用してもらえるように、設置機器の紹介等を積極的に進める必要がある。	引き続き、ものづくりの基礎的技術の習得や技能の向上を図るため、パステル工房を活用した学生のものづくりを支援する。
16	パステル工房	事故時対応が不十分になる恐れがあるため、専任職員の雇用が必要である。	専任職員雇用に対する予算措置を引き続き求める。	専任職員の常駐は実現できなかった。	事故対応の体制を整備して、専任職員がいなくてもできるだけ安全確保できるようにした。	教育・安全の観点から専任職員の常駐が望ましく、予算措置を引き続き求める。
17	パステル工房	老朽化している工作機械はメーカーの補修対応期間が迫っており、早期の入れ替えが必要である。また、経年劣化による消耗品の交換も必要である。	入れ替えの必要な工作機械について優先順位をつけて予算要求を進める。	購入年月からの経過やメーカーの補修対応期間に応じて工作機械の入れ替えの優先順位を付けた。	旋盤を新しく導入することで、より安全に作業することが可能になった。また保守費用の節約にも繋がった。さらに高いセキュリティも確保できた。	引き続き、入れ替えの必要な工作機械について優先順位をつけて予算要求を行う。
18	パステル工房	新規設備を近年多く導入し、パステル工房内レイアウトが変わっているため、安全管理・保安が十分か確認が必要である。	危険箇所の洗い出しを行うため、安全パトロールを例年通り実施する。	第1回の運営委員会後に安全パトロールを実施した。	故障した時計の交換等、安全に作業のできる環境を整備した。	引き続き、安全パトロールを実施し、危険箇所の洗い出しを行う。
19	パステル工房	学生のものづくり教育の一環として行っている「チャレンジ the ものづくり」を効果的に実施するため、参加者数を増加させる必要がある。	昨年の実施結果をもとに学生が興味を持ち、参加したくなる内容を拡充する。全学的に学生が参加してくれるよう、教養ゼミでのパステル工房の見学会や参加募集の早期の呼び掛けを行う。	風鈴、リングピロー、写真立て、小物入れといった身近なものを学生自身が作製する内容にした。興味を惹く募集案内を作成し、看護学部を含めた全学生に早期に配布した。	のべ20名の学生が積極的に参加して、ものづくりに挑戦した。アンケートの結果より、学生の満足度が高く、楽しくものづくりを体験できたイベントとなった。	引き続き、「チャレンジ the ものづくり」を実施する。早期にアナウンスを行って、多くの学生に参加してもらえるようにする。
20	教養教育	平成31年度4月(5月から令和元年度)に看護学部が開設され、学生数が増加する中で、教養教育センターとして工学部・看護学部両学部の教養科目に関係する教育を確実に実施していく必要がある。 【令和元～2年度】 複数年度課題	【令和元年度】 ・工学部総合科目および看護学部科目区分(人間の理解)の選択科目のクラス分け作業を授業開始前に実施し、実施後課題についても検討する。 ・令和2年度からの新棟での授業開始を踏まえた時間割を決定する。 ・各授業科目または科目群で、履修状況等何か問題が生じていないか点検を行う。 【令和2年度】 看護学部では外国語科目の一部を除き前期で教養科目は完成年となるが、卒業要件の25単位以上修得できているか調査し、状況によっては再履修の方法等を検討する。	・前年度末の3月から4月オリエンテーション期間にかけて、工学部総合科目・看護学部科目区分(人間の理解)のクラス分けの手順の確認、成績配布時(工学部学生)や新入生オリエンテーション時の調査票配布、クラス分け作業を行った。また、工学部1年次生対象の一部科目群について、9月の成績配布時の調査票配布とクラス分け作業も行った。 ・令和2年度の時間割を年度末に決定した。 ・各授業科目で個別の状況把握を行った。	【優れた点】 ・クラス分けにより、支障なく授業を行うことができた。 【改善を要する点】 ・オリエンテーション日程と授業日程によっては、クラス分け作業の余裕がなくなる懸念がある。 ・看護学部のクラス分けをしない同時間科目群(自然)において、極端な受講数の差が生じ、教室変更の措置を行うことになった科目があった。 ・看護学部の一部科目(英語)で次年度時間割に再履修クラスを設ける必要が生じた。	・看護学部2年生に対して、卒業要件の25単位以上修得できているか調査する。 ・クラス分け作業の余裕がなくなる日程の年度の場合、作業上の工夫が必要か考える。 ・看護学部のクラス分けをしない同時間の2科目(自然)において、教室の入れ替えの可能性を考慮し、同じフロアの教室を配置する。 ・看護学部の一部科目(英語)で時間割に再履修クラスを設ける。

番号	委員会・学科	今後、改善に取り組む課題	令和元年度に行う改善に向けた方策<Plan(計画)>	令和元年度における改善に向けた方策に対する評価等		
				令和元年度の取組内容(結果)<Do(実行)>	評価結果(優れた点、さらに改善を要する点等)<Check(評価)>	改善に向けた方策(案)[または翌年度へ引き継ぐべき課題]<Act(改善)>
21	教養教育	入試制度や学習指導要領(高校・中学)の変更に合わせて、教養科目の内容について検討を始める必要がある。	今後予定されている入試制度や学習指導要領(一部科目については既に調査を実施済)の変更内容の調査を行い、本学の教育への影響を分析する。	令和3年度入学生対象の、センター試験に代わる共通テストの実施方法において、英語の民間試験活用と国語・数学における記述式問題の実施が見送られ、今後1年かけて文科省で検討されることとなったので、その結果を待つことにした。	【優れた点】特に無し 【改善を要する点】文科省の共通テスト内容の検討結果によっては本学の教育への大きな影響があるかもしれない。	今年度に引き続き、文科省の共通テスト内容の検討結果および令和7年度からの本格的な新指導要領で教育を受けた入学生への対応のための情報収集を行う。
22	機械システム	中長期的な学科のあり方について検討を続ける必要がある。	学科内に設置した25年検討委員会により、残された課題の抽出を行うとともに、その課題について学科で議論し、具体的な対応策を作成する。	今後検討すべき課題として、以下のものを抽出した。 ・研究面での情報共有・協力体制の強化 ・情報発信の充実(高校生向けPPT、学科HP、研究室紹介(研究室HP)) ・学科の教育目標、新たなコンセプトについての議論とたたき台の提案	【優れた点】具体的な課題を抽出した。 【さらに改善を要する点】抽出された課題を学科内で共有し、実行に移す必要がある。	【改善に向けた方策】25年検討委員会内での議論を深めるとともに、学科に展開し、関連する学内委員会等との連携をとりながら、実行体制を整える。
23	機械システム	プレ配属制度(H30年度入学生以降)の実施(R2年度後期)に向けた準備を行う必要がある。	教務委員を中心として、成績開示(R元年度)及び研究室紹介(R2年度)の準備を進める。	成績開示についてオリエンテーションで学生に周知するとともに、研究室の説明会や見学時期を定めた。	【優れた点】プレ配属に向けた準備を着実に進めた。	【引き継ぐべき課題】当初の予定通りR2年度後期にプレ配属を実施する。
24	機械システム	学部及び大学院のカリキュラム改定に向けた検討を継続する必要がある。	昨年度学科内に設置したカリキュラム検討WGを中心とし、改定準備を進める。	定期的にWG会議を実施し、検討を進めた。	【優れた点】定期的に継続的審議を重ねた。	【引き継ぐべき課題】令和3年度からの実施を目指し、大学院のカリキュラム改訂準備を進める。
25	機械システム	大学院進学者数が伸び悩んでいる。	学内においては、全ての学年の学生に対する大学院PR活動を行う。また、保護者向け進路ガイダンスなどの機会を利用して、保護者へのPR活動も行う。さらに、高校訪問の機会を利用して、高校の進路指導の先生方や高校生に向けたPR活動も実施する。	オリエンテーション、進路ガイダンス、高校訪問(一部のみの)の機会を利用して、大学院進学を勧めるPRを行った。また、本学大学院OBの企業技術者による講演(のべ3回)を行い、大学院進学のための動機の強化を図った。	【優れた点】計画に沿ってPR活動を行った。 【さらに改善を要する点】取り組みを、さらに組織的に行うことが求められる。	【改善に向けた方策】大学院入試委員を中心として、学部入試委員とも連携を取りながら組織的に大学院PR活動を行う。
26	知能ロボット	受験生・保護者・高校教諭に対して、知能ロボット工学科で学べることを理解してもらい、卒業後の出口をイメージしやすい情報発信をする必要がある。	知能ロボット工学科で学べることを紹介するとともに、卒業後の出口をイメージすることができるようホームページを拡充する。	重点研究領域で取り組んでいる、ドンマス教授ロボの開発秘話特集ページを掲載した。大学で学んだことが就職してからどのように活かしているかという観点でインタビューをした記事を掲載した。	開発秘話特集ページへのアクセスにおける平均閲覧時間が約2分となり、じっくり読み込んでもらった。特に、新規公開記事は、アクセス数上位2件のコンテンツとなり、受験生・保護者・高校教諭にとって必要な情報を提供できた。	学科の情報は充実したが、専攻に関する情報が不足している。大学院再編を見据えて、効果的な情報発信を行う必要がある。
27	知能ロボット	学科拡充等に伴い新規開講科目が増えたため、カリキュラムの日程が過密になっており学生の自主学習時間が不足している。	学科拡充等に伴った新規開講科目によって過密になったカリキュラムの見直しを行う。	カリキュラム改訂WGを立ち上げ、新カリキュラムを立案した。	ロボット技術などの革新的な技術開発につながる教育に沿った科目を選定し、専門科目および数学系科目の配置を学習進度に合わせて見直した。従来と比較して空きコマが増え、学生の自主学習時間に取れる時間を確保できた。	開講科目に合わせて予習・復習が行える科目配置となっているか検証をする。
28	電子・情報	学科拡充後の定員80名の電子・情報工学科では、2年後期からのコース制によって少人数で専門性を高めるカリキュラムとしているが、学生が自主的に課題に取り組む環境が不足している。	電子・情報工学実験3を重点として、コースごとの特徴をいかした実験項目を検討し、学生が自主的に課題に取り組む環境を整備することができるテーマと環境を整備する。また、アンケートや教員との懇談会を行い、学生の意識把握、意欲向上とコース選択に役立てる。	【電子・情報工学実験3】(電子コース)コースの講義内容に即した実験回路製作や測定機器の取り扱いを学ぶ実施環境を準備し、実施した。(情報コース)プロジェクトベースの8つのおおまかな実験テーマを準備し、学生が自分たちで課題立案から製作及びプレゼンテーションまで一貫して課題に取り組めるよう、実験環境を準備し、実施した。 【懇談会】 ・学生が教員の考え方や研究について理解を深めるために、6月に2年生と教員の懇談会を実施した。	【電子・情報工学実験3】(電子コース)今年度の予算で実験機器を追加購入できた実験テーマについては学生1人ないし2人で実験を実施し、能動性を高めることができたが、実験機器が高価なものに対してはやむを得ず多人数での実験実施となった。(情報コース)課題設定から解決・プレゼンテーションまで学生が能動的に実験に取り組む、卒業研究にもつながる実践体験ができた。自由な学生の発案に対応できるよう、実験機器をさらに充実させる必要がある。 【懇談会】 ・懇談会は参加者の95%以上が満足できたと評価していた。	【電子・情報工学実験全体】(電子コース)より少人数で実験実施が可能となるように実験機器の整備を進める。また学科の分野の拡充及び技術動向に合わせて実験テーマの改善を継続する。(情報コース)実験機器の充実にむけて予算の措置及び実施計画も含めて実験テーマの改善を継続する。 【懇談会】 ・学生からは全教員の話を知りたいという意見が多く、学生間で情報共有できる場を提供するなど検討が必要である。
29	電子・情報	電気電子工学科、情報システム工学科の新設に向けて、ホームページをはじめとする広報活動を加速させ、充実させる。	学科内の広報検討チームが中心となって、学科新設に伴う各学科の教育研究などを、迅速に随時更新できるようにする。	学科の広報検討チームとして来年度スタートする電気電子工学科、情報システム工学科のWebページの新設を行った。新たに公開したWebページは、デザインを外部業者に発注し、PCだけではなくスマートフォンでも閲覧しやすくなるようになった。また、Webページのアクセス解析ができるようになり、学科の広報の閲覧状況を確認できるようになった。	製作したWebページには学科のトピックス等を知らせる箇所があり、教員が自ら編集できるように整備した。これにより、学科内のイベントや研究活動を迅速に掲載することが可能となり、スピード感をもって広報できるようになった。	トピックスの更新を頻繁に実施する必要がある。また、アクセス解析を行い、必要とされる情報が掲載されているか確認し、随時ページを更新することが必要である。

番号	委員会・学科	今後、改善に取り組む課題	令和元年度に行う改善に向けた方策<Plan(計画)>	令和元年度における改善に向けた方策に対する評価等		
				令和元年度の取組内容(結果)<Do(実行)>	評価結果(優れた点、さらに改善を要する点等)<Check(評価)>	改善に向けた方策(案)[または翌年度へ引き継ぐべき課題]<Act(改善)>
30	環境・社会基盤	大学院科目は「教員に科目が張りつく方法」で開講しているため、教員数の増加に伴い、科目数が増え、受講者が少ない、開講できないなどの問題が生じている。	大学院科目の統廃合や隔年開講について検討し、案をまとめる。	大学院科目の統廃合および講義科目の隔年開講について検討した。 今年度採用の新任教員に大学院科目の一部を担当してもらい、科目の統廃合を検討した。	新任教員に現行の大学院科目を担当してもらった結果、講義内容の充実や統廃合について再検討できた。 大学院再編に向けた大学院科目の統廃合について一部の科目で提案できたが、隔年開講についての具体的な方向性の確立にはいたらなかった。	引き続き大学院科目の統廃合および講義科目の隔年開講について検討する。
31	環境・社会基盤	平成30年度入試より入試科目の変更、単願制に変更したことによる入学学生の学力等への影響を把握し、必要であれば対応を検討する。 [平成30～令和2年度] 複数年度課題	【平成30年度】基礎物理学、基礎化学の受講状況について入試科目との関係性を整理する。 【令和1年度以降】基礎科目の受講状況に加え、専門科目、実験実習系の受講状況、成績との関係性を整理する。	物理、化学の教養科目および専門基礎科目の物理系、化学系科目の成績状況を評価した。	1年次生は昨年度と比較して物理受験生が多く、化学系が苦手な学生が昨年度より増えたようであった。 物理、化学系科目共に理解している者とそうでない学生が幅広く存在している印象であった。1年次生の化学科目については昨年度よりも成績は低下していた。	引き続き学生の物理、化学の理解度について評価する。 特に、物理系、化学系の専門科目についての理解度を評価する。
32	生物	大学院進学者数が少ない。	引き続き、大学院進学者を増やすための方策として、大学院のPR活動、オープンラボなどを実施する。医薬品工学科開設に伴う専攻名称変更・定員増加に伴う入試形態の見直しを行う。	昨年度に引き続き、研究室での啓蒙を継続するとともに、オープンラボを開催した。修士課程の生物・医薬品工学専攻と名称変更に伴う入試形態や教育理念などの文言を見直し、改定した。	これまでと比べて大幅に大学院進学希望者が増加した昨年度に対し、今年度は例年通り(10名強)の進学希望者数となり、2月の時点で定員を充足には至っていない。	次年度は、修士課程が生物・医薬品工学専攻と名称変更し、定員も16→26名と1.6倍強になるため、より大学院進学者を増やすための方策を練る必要がある。
33	生物	H30年度入試における志願者が大幅に減少した。 【令和元～2年度】 複数年度課題	昨年度における志願者倍率の増加が学科の宣伝活動によるものなのか、それとも単に低倍率であった一昨年度入試の隔年現象によるものなのかを見極める。今年度も継続して、高校訪問等を積極的に行い本学科の宣伝を行う。倍率の低下が起きている原因を学生募集係の人達と精査し、可能な限り対処する。2020年度入試に向けた入試形態の検討について全学的に検討をする。	昨年度に引き続き、学科HPの頻繁な更新、高校への聞き取り調査と宣伝活動を学科教員全員で進めた。学科会議でも毎回、志願者向上のための宣伝活動をどうするか議論を重ねた。	結果、今年度の推薦入試では2.5→1.8倍と減少したが、一昨年度が1.7倍だったので通常の誤差範囲内の推移と言える。 一方前期入試では、4.0倍→1.1倍と激減してしまった。一昨年度が1.8倍であったのでやや隔年現象ではあるが、1.1倍という数字は大きな問題であると認識している。 後期は3.5倍→5.0倍と若干増加したが、一昨年度が9.5倍であったのでやはり下降気味と言わざるを得ない。	推薦入試の倍率は、医薬品工学は生物工学に比べて若干高いが、県外生の割合が非常に多く、県内においては生物工学の人气が高く、宣伝の効果は出ていると思われる。しかしながらさらなる倍率の向上は必須のため、次年度以降も県内高校に宣伝活動を続けていきたい。 前期の大幅減少は、併願可能な医薬品が3.3倍の倍率があるため、二次志望で本学科に流れてくる合格者が相当数おり、定員割れという事態にはならない事を望んでいる。本来生物工学を志望している学生層が医薬品からの横滑りではじき出されているここ数年の現状は、学科の教育方針とのずれを生じるため、学科全体で何らかの検討をすることが急務である。 後期入試については、倍率の低下傾向が止まらないことと入学者数の確約が読めないことから、廃止(推薦入試枠への移行)も含め、全学的に検討をする。 2020年度入試に向けた入試形態の変更については全学的に検討をする。
34	改革・評価委員会	2学部体制となり、看護を含めたPDCAのより積極的な取組みが求められているなか、今年度は、法人評価において、中期計画に対する中間評価を実施し、次期中期計画の策定の準備を進める必要がある。	・法人評価等の評価結果・課題等の周知や、PDCAのより積極的な取組みが進められるよう、学内へ働きかけていくとともに、2学部体制に伴う推進体制の整備を図る。 ・現行中期計画の業務実績見込評価に基づく見直しや2学部体制に伴う新たな取組みの検討など次期中期計画の策定の準備を進める。	・法人評価結果、学内におけるPDCAの取組みについて、教育研究審議会への報告にあわせて、学内教職員にもメール等で報告・周知し、情報共有と各自の意識付けに努めた。 ・2学部体制に伴い本委員会の構成員に看護学部が選出する教員と富山キャンパス事務部の課長を加えた。 ・今年度中間評価を受けた中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績報告書の取りまとめにあたり、各委員会・学科等に次期中期計画策定に向けた意見を併せて聴取するなど策定の準備を進めた。	・PDCAに取り組まれた件数が34件と昨年度より4件増加し、法人評価結果についても、学内教職員への報告・周知を行った。 ・今後、PDCAに取り組まれていない委員会・学科等においても取組みが計画されるよう、さらなる学内への周知と意識付けを進める必要がある。	①令和2年度には、法人評価において、次期中期計画を策定する必要がある。 ②新設の学部学科でPDCAに取り組まれていない組織においても取組みが計画されるよう、働きかける必要がある。

「令和元年度における改善に向けた方策に対する評価等」に関する学長コメント

来年度は中期目標を達成するための計画(中期計画)の最終年度であり、目標値の達成が厳しい項目については、現場レベルでも達成に向けて具体的な課題を掘り起こし、積極的な改革・改善に取り組んでいただきたい。また、来年度、改善に取り組む課題や改善に向けた方策を、各委員会、学科等で決定する際には、それぞれ具体的な内容を明示することに留意していただきたい。